

| | | | 部会名 | 人づくり・地域づくり |
|------------------|---|-----|---------------|------------|
| 施策No. | 4-1-2 | 施策名 | コミュニティ会議の基盤強化 | 地域づくり課 |
| ■内部評価について | | | | |
| ①成果指標について | <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。 →沿っている。ただし、後述のように指標の追加がのぞましい。 ・目標値の設定は、適切か。 →目標値は75%で一定ではなく、少しずつ上げていくのがのぞましい。 ・他に考えられる指標はないか。 →コミュニティ会議における新たな取り組みの状況を把握する指標の追加がのぞましい。 ・成果指標の達成状況についての確かな分析を行っているか。 →施策評価シート「3成果指標の達成状況」の記述で、「地域での課題解決」の割合の上昇要因が、行政の地域づくり交付金の取り組みの成果とされているのは適切ではない。地域づくり交付金の配分額が毎年一定であることを考慮すれば、課題解決割合の上昇は、交付金の使い方に慣れてきたことや、与えられた予算で課題解決ができるようになってきたことなど、地域側の取り組みの成果と捉えるのが妥当である。 | | | |
| ②施策を構成する事務事業について | <ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →過なものはない。ただし、交付金配分やハード整備以外の、ソフト面の支援の取り組みが不足している。 ・目指す姿の実現に貢献している事業か。 →貢献している。 ・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →現在の事業は、当初(8年前)からの時間経過に伴う社会情勢の変化に対応できていない。公民館の集合体を「コミュニティ」とすることの意義や、振興センターの目標や位置づけ、あるいは市民の生活保障の観点からのこの施策や事業の意義など、地域づくり交付金の配分やソフト面の支援における市の関与のあり方を、「考え方」のレベルから明確化したり見直す必要がある。 ・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →コミュニティ会議の活動の実効性を上げるには、振興センターの目標や位置づけを明確にする必要がある。また、交付金配分の結果が不明確であるなど、各地域での取り組みの違いへの目配りが不十分である。 ・他に考えられる事業はないか。 →コミュニティ会議のソフト面の取り組みに対する支援強化が必要である。具体的には、若い人や市外からの定住者など、幅広い世代の人達に持続的に関わってもらえるようにする取り組みが考えられる。 | | | |
| ③施策の総合的な評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点・課題が明確になっているか。 →施策の目指す姿の実現を目指すには、公民館の集合体を「コミュニティ」とすることの意義や、振興センターの目標や位置づけ、あるいは市民の生活保障の観点からのこの施策や事業の意義などが明確化される必要がある。現状ではこれらの点が不明確であるため、目指す姿を実現するための現状の問題点や今後の課題が明確になっていない。コミュニティ会議のソフト面の支援を各地域の取り組みに応じて効果的に行うには、これらの点を明確にする必要がある。 | | | |
| ④シート記載内容について | <ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →各コミュニティ会議に対する地域づくり交付金の資料について、配分額の提示だけでは不十分である。配分された額に対してどのような取り組みが行われたのかが分からなければ、コミュニティ会議の取り組みの実効性を上げていくための方策を考えることができない。 →事務事業評価シートの活動指標のうち、「①コミュニティ会議への交付金交付件数」は、全てのコミュニティ会議に交付金を配分しているため、指標としては不要である。 | | | |